

高知県森林簿の「その他広葉樹」について

1170197 影平 達哉

On the "Other Broad Leaf Trees" in the forest register of Kochi Prefecture

Tatsuya Kagehira

日本には、人工林が約 1000 万 ha あるが、手入れ不足になった林分や経済的に成り立たなくなつた林分が増加しつつある。一方で、広葉樹林に対する人々の期待が高まっている。林野庁の施策においても多様で健全な森林の整備が掲げられており、人々が生態系サービスの恩恵にあずかれるよう、対象となる人工林を広葉樹林、混交林へと誘導・育成することが求められている（林野庁、広葉樹林化ハンドブック 2010）。本研究では、高知県森林簿のデータ、環境省の植生図を基に、R 言語と地図情報システム（GIS）フリーアプリケーション QGIS を用いて、高知県の広葉樹林について検討を行った。高知県の民有林のデータは高知県によって「森林簿」にまとめられているが、面積・材積の上位 3 樹種カテゴリーはスギ、ヒノキ及び「その他広葉樹」である。「その他広葉樹」について林齢－材積プロットを行うと、ほぼ 3 つのグループに分かれる。材積の大きな順にグループ 1、グループ 2、グループ 3 に分け、QGIS を用いて森林簿と環境省の植生図を重ねたところ、大部分が常緑広葉樹の「シイ・カシ二次林」であって、樹種によって 3 グループに分かれているのではないことが分かった。地域、標高との関係から、グループ 1 は標高の高い山間部に、グループ 2 は標高が中間の山間部に、グループ 3 は標高の低い地域に分布することを確認することができた。なお、県北の標高の高い部分では、シイ・カシ二次林の他、コナラやイスシデ・アカシデ等の落葉広葉樹が「その他広葉樹」に含まれる可能性がある。